

学園より

新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する本学の取り組み

大場 克美

4

式典報告

2019年度卒業生へのメッセージ  
2020年度新入生へのメッセージ

原科 幸彦  
内田 茂男

12

巻頭言

難局を乗り越えよう！  
会長就任にあたり

勝田 啓示  
平野 泰宏

22

特集 1

学部紹介—人間社会学部—  
地域共生社会の実現に向けた人間社会学部の取り組み  
〔卒業生寄稿〕千葉商科大学との出会い  
学部紹介—国際教養学部—  
地球大で考え、世界と繋がる人材の育成  
〔卒業生寄稿〕大学生活で学んだことを活かして  
学んだことを社会人になり活かす  
世界を目にし、全力疾走し続けた5年間の記録

鎌田 光宣  
堀田 知里  
宮崎 緑  
榑 幹季  
村田 悠  
畑中 舞

24

特集 2

令和元年度私立大学等改革総合支援事業

タイプ1「特色ある教育の展開」について  
タイプ3「地域社会への貢献」〔プラットフォーム型〕への選定と  
大学コンソーシアム市川の未来

柘岡 源一郎  
朽木 量

40

特集 3

2020年度入学者の入試振り返り

出水 淳

48

特集 4

The University DININGの紹介  
トリちゃんのカレー誕生ストーリー

西尾 淳

52

社会に巣立った卒業生

教員になるために  
一歩踏み出す  
一瞬一瞬を大切に  
継続は力なり

羽石 有沙  
鈴木 晴也  
米内 紗菜  
島田 明里

61

同窓会活動

維持会員のご案内  
本部からの報告  
基盤強化  
卒業祝賀会の中止

広報・IT委員会

66

	同窓会創立50周年記念事業 常任理事会・理事会・各委員会 支部からの報告 同期会からの報告 その他特定団体からの報告 同窓生寄稿 初春の増毛山地を縦走 卒業生のお宿・お店紹介「割烹中むら」				
	随筆				
	農山村に向かう若者たち				
	CUC経営者会議ニュース				
	教育後援会報告				
七ミ紹介	モノづくりの楽しさを知ることから身につける「楽しさ発見力」				
	■ ニュース・イベント 「商経学部」商経学部生が横浜・伊勢佐木町商店街の活性化に取り組み 「サービス創造学部」サービス創造フェスティバルを開催 藤野和樹専任講師が大学体育スポーツ研究フォーラム優秀発表賞を受賞				
	■ 国際センターニュース SPSU交換プログラム体験記―インドで世界を学ぶ				
	■ キャリア支援センターニュース 満開の桜も戸惑うコロナウイルス、危機の向こうに明るSame RAI				
	■ 地域連携推進センターニュース 第10回地域連携フォーラム開催				
	■ ライブラリーニュース 大学コンソーシアム市川共同開発科目「市川学」について				
	■ 図書館長就任にあたって 図書館長就任にあたって				
	■ 定年退職を迎えて 30年前の「機械翻訳」				
	■ 退任された教員より 「眠れる美しい生き物」				
著書紹介	著者：関口雄祐				
	▼第50期同窓会維持会費及び華甲会費納入者覧 106				
	▼同窓会支部事務局一覧 112				
	▼編集後記 114				
	関口雄祐				105
	石毛雅章				104
	松尾正敏				102
	師尾晶子				101
	橋本隆子				100
	川瀬功				99
	吉羽一之				98
	齋藤勉				95
	小口広太				92
	中村佳之				91
	金澤敏勝				90
	齋藤勉				90
	小口広太				89
	吉羽一之				88
	齋藤勉				87
	中村佳之				77
	金澤敏勝				73
	齋藤勉				73
	小口広太				71
	中村佳之				70
	金澤敏勝				68
	齋藤勉				67
	小口広太				67

# 難局を乗り越えよう！

勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭34商)



今年新型コロナウイルスの感染拡大で令和最初の卒業生・保護者の方々には学位記授与式・卒業祝賀会が、そして心新たに希望に満ちた大学生活を心待ちにしていた新入生・保護者の方々には入学式が、それぞれ中止となり何とも残念であったと思う。心痛む。

同窓会も今年はじめに大学・同窓会・教育後援会共催で卒業生の門出を祝う卒業祝賀会を企画していたが中止となり残念な思いをした。それでも「卒業祝い文」「同窓会案内」等々を配布することができ、同窓会の気持ちちは巢立っていく皆様には伝わったと思っている。

同窓会は今年11月に創立50周年を迎える。記念総会など様々なイベントを企画中である。ぜひお越しいただき、躍進する母校に誇りをもち、伝統と歴史を共に祝い喜ぶたいものである。

大学は第2期中期経営計画(2019～2023)を策定し、「社会が必要とする大学」としての基盤を確立することを目指している。教育力・研究力・学生支援体制を強化するため、重点施策「I S T戦略」をキーワードに建学の精神に基づいた高い倫理観を持った実業家の育成に取り組んでいる。年々優秀な学生が増え、着実に成果を上げていると伺っている。同窓会としても少しでも協力できればと思っている。

この「きずな」第33号が発行される頃には新型コロナウイルスも収束し、いつもの明るいきャンパスが戻ってくることを願っている。大学・同窓会・教育後援会(保護者会)・CUC経営者会議が一体となり、この難局を乗り越えたいものである。

## 教員になるために

羽石 有沙

千葉県立銚子商業高校勤務  
2020年 商経学部商学科卒

私にとって大学とは、様々な人を知る、出逢いの場でした。

私には大学生活のなかで、教員になるという目標がありました。私にとってこの目標は、定められた条件（設定科目の修得等）をクリアするはつきりとした明確な目標でもあ

りました。

この目標と向き合っていくなかで、とくに瑞穂会、教職課程、ゼミナールの3つの場所で多くの刺激を受け、また多くの人と出逢うことができました。

ゼミの仲間と沖塩先生をかこんで（筆者は前列左）



り、教員になることは、どのようなか、どうあるべきなのかと、いった人間性を考えるような曖昧な目標でも

瑞穂会では、全く関わりのなかった学部の友人ができ、互いに教え合いながら簿記の資格を取得することができました。また瑞穂会の先生方には、資格取得後も瑞穂会で授業補助をさせていただき、資格取得に向けた授業について多くのことを勉強させていただきました。

教職課程では、お互いの考えを述べることで多く、様々な考えを知る良い場でした。先生方だけでなく、

先輩・同期・後輩が私にとって師であり、尊敬する友人でした。

そしてゼミナールはこの目標のなかで、考え続ける機会と激励をいただいた一番の場所です。私の所属していた沖塩ゼミは、教育について知りたい、知らなければいけないことを深く学ぶゼミで、教育（学）分野の研究にかぎらず、これを学ぶための前提となる知識やスキル、将来教壇に立つために必要な心がまえといったことを含めて学びました。ゼミの沖塩有希子先生はもろろんのことと同期や後輩と意見を交わすことは、とても楽しく勉強の場となりました。以上3つのほかにも大学生活では色々な場でお世話になり、見聞を広めることができました。教員になるという目標を達成したいま、自身の限界を定めず謙虚に取り組んでいくとともに、学ぶ意欲を持ち続ける教員でありたいと思います。

# 一歩踏み出す

鈴木 晴也

市川市役所勤務  
2020年 政策情報学部卒

「やらずに後悔するなら、やって後悔しよう」。私は大学生活を前にして、このように心に決めていました。なぜなら、今までチャンスを前にしても行動に移せず、後悔ばかりを口にしてしまう自分を変えたいと、強く願っていたからです。そんな

想いを抱え

た私は、この4年間で様々なことに挑戦し、多くを学び経験することができました。

課外活動

ではボランティアサークルに所属し、子どもの居場所作りを目的として活動してきました。活動を通じて、企画の立案や募集を行い、時には大人や保護者を交えて何十人もの前で話すこともありました。はじめは、人前で話す度に声が震え恥ずかしい思いをしていました。しかし、回数を重ねる毎にはつきりと喋れるようになっていき、自身の成長を肌で感じることができました。

易なことではなく、一時は公務員を諦めようとしていました。しかし、共に公務員を目指す仲間や背中を押してくれる先生の存在、そして何より「道半ばで諦め、後悔したくない」という想いから、結果はどうであれ最後までやり切ると決心し、最終的に市川市役所に合格できました。

こうして、大学生活を振り返ると私は本当に恵まれていたと感じます。どんなときも頼れる先生方、信頼できる友人、かけがえのない経験を得られたサークル、大学の手厚いサポート、こんなにも素晴らしい環境が身近にあったからこそ、不安を抱きながらも様々なことに挑戦できたのだと思います。4月からは晴れて社会人となり、環境が一新されます。しかし、この千葉商科大学での4年間を思い出せば、どのような環境であっても一歩踏み出し挑戦していけると確信しています。



ボランティアサークル「市川てらこや」の仲間

## 一瞬一瞬を大切に

### 米内 紗菜

学校法人中山学園高等学校事務職員  
2020年サービスクリエーション部卒



©CHIBAJETS FUNABASHI/PHOTO:Junji Hara

私はこの4年間、自分に自信をつけ成長していきたいと思い、活動してきました。大学生活では、プロジェクトやゼミ、チャタンスチームgittersに取り組みました。活動にあたっては、当事者意識や責任感、諦めない心を持つこと、信頼を得ることを軸として、サービスクリエーション部

の環境や学びを最大限に活かすことを目標にしました。4年間、自分自身の変わりやすい気持ちを持ち続けることができ、周

の人や環境にとっても恵まれていたと感じています。

先生方や学部からは多くの仕事の機会をいただきました。社会で活躍している方々や先生方の仕事を間近で見ながら、意見交換やお手伝いをさせていただくことで、多くの刺激を受け、吸収することができました。その経験を活かして、様々なことを実行したことで今の自分があると思います、とても感謝しています。

様々なチャンスは、この学部だからこそ得られたと感じています。多くの会議にも参加させていただいた中で、先生一人一人が学生のことを真剣に考え、より良い環境を作ろうとしていることを知りました。先生方の愛を感じ、そんな先生方がいる大学で4年間を過ごすことができ、この大学を選んだことに後悔はあり

ません。

私の就職先は母校の高校の事務職です。ずっと働きたいと思っていたものの、席が空いていないため諦めていました。一度は違う就職先を選んだものの、本当にそれでいいのかと悩む日々でした。結果的に、校長先生にアポイントを取り、プレゼンテーションをして新しく自分の席を作っていただくことができたのですが、昔の自分ならそんな行動力はなく諦めたままだったと思います。このようなチャレンジは、この大学、学部で学んでいたからこそ行えました。

この4年間、勇気を持ってチャレンジするその一歩が、様々な交友関係、信頼、経験、学びにつながることを実感できました。目標を意識して活動でき、多くのことを身につけられたと感じています。ですが、まだ積極性や行動力の面で足りない部分も多いです。これから社会人になっても一瞬一瞬を大切に、出会いを大切に、さらにアンテナをはってチャレンジを継続していきたいです。

# 継続は力なり

島田 明里

全国農業協同組合連合会千葉県本部勤務  
2020年 人間社会学部卒

「昨日までできなかったという事実が今日もできないという理由になんかならない。『できるようになる日』は努力を止めなかった人にだけある日突然やってきます」

これは高校時代の恩師の言葉です。私は不器用が故に、人並みのことが出来るようになるにも人の倍以上の努力が必要であり、人並み以上のことをしようとしたら、その何倍も努力が必要になります。途方もない道のり。漠然とした不安。自分の不甲斐なさに泣く大学生活でした。

1年生から学生スタッフとして参加し、3年次には学生統括を務めた「真間あんどん祭り」。準備に準備を

重ねても、何度も責任感に押し潰されそうになりました。それでも地域の皆さんの想いはもちろん、歴代の先輩方が汗をかき、考え抜いて繋げてきた大切な

想いを繋げなければと思うと、立ち上がれたのです。地域の実行委員の方から総評として「準備8割、本番2割というからね」と準備段階を含めイ



イベント当日のライトアップ



1年次参加の様子

ベントの出来をお褒め頂き、不器用でも準備を大切にすれば、何事も成し遂げられるし、そのチャンスを持つているのだと大きな自信になりました。

また、給費生として入学した為、普段の講義から手を抜けないのは勿論、成績・委員会・学部A.L、どれも中途半端にしたいくありませんでした。



プレゼン大会関東予選での集合写真(筆者は左から5番目)



3月20日 委員会同期と里見公園にて(筆者は前列左から2番目)

いかに時間を有効に使い、両立するか試行錯誤の毎日。それぞれをやり切った時の達成感はひとしおでした。私の大学4年間で成り立ったのは、大勢の方の力添えとご縁のお陰です。各シンポジウムでのパネリストや、

全国規模の大会でのプレゼンター ション等、振り返ると本当に贅沢な経験をさせて頂きました。大切な同期・先輩・後輩、教職員の皆さん、両親に助けられ支えられて今の自分があります。勇気をくれる言葉、お世

話になった方への感謝の気持ちと、それに報いたい気持ちがある。私の背中を押します。恩返しの意味も込め、自分のペースで着実に積み重ねていけるよう、社会人生活を全うしたいです。